

日時：2015年7月25日 10時-11時50分

場所：国立がん研究センター 国際研究交流会館

出席者（敬称略）：鹿間、野崎、和田、永倉、高橋、原田、小杉、平安名、斉藤

① 進行中の臨床試験：JROSG 11-1（原田）

- ・ 7/25時点で、23例まで登録が進んでいる。
- ・ 症例登録は2015年12月31日で終了であり、再度の登録期間延長は行わない。
- ・ 現時点で重篤な有害事象は認められていない。
- ・ 採血結果に基づいたゾレドロン酸投与量決定にプロトコル逸脱があり、問題点をメモランダムとして周知した。
- ・ 藤枝市立総合病院でのIRB審査で、プロトコルで認められない治療のために患者が不利益を被る可能性があるのではないかと指摘があった。プロトコル治療を中止して必要な治療を受けることは随時可能であり患者が不利益を被ることはない、との認識が確認された。

② 新規試験案

1) 止血照射（小杉）

- ・ アンケート調査では、線量として30Gy/10回が比較的多く選ばれていたが、その他にも多様な線量分割が選択されていた。
- ・ アンケート調査では、上部・下部消化管腫瘍、泌尿生殖器腫瘍への止血を主な目的とする放射線治療について、各施設の年間治療患者数は少なかった。
- ・ アンケート調査について、本年のJASTROで発表予定であり、今後論文投稿を行う予定である。
- ・ 前向き研究が存在せず後ろ向き研究では有効性の示されている、胃癌への止血目的の放射線治療について、今後多施設観察研究を計画する方針となった。
- ・ アンケート調査では現状ではわずかしかわられていない治療であることが示唆され、観察研究の実行可能性について検討が必要である。
- ・ 止血目的の放射線治療のアウトカムの設定を検討する必要がある。patient reported outcomeを取り入れることも一考の余地がある。

2) 膵癌の緩和的放射線治療（永倉）

- ・ 膵癌の疼痛緩和を目的とした放射線治療の研究についての提案があった。
- ・ 十分に多くのニーズはないかもしれない。

3) 骨転移への再照射、神経障害性疼痛に関する研究（斉藤）

- ・ よい形での研究が計画できなかった。一旦検討は終了とする。